

研究開発の概要

鳴門市林崎小学校 鳴門市里浦小学校 鳴門市第二中学校

1 研究主題

豊かな国際感覚を育み、コミュニケーションへの積極的な態度と確かな英語力を育成する小中一貫の外国語教育の創造



2 研究の目的と仮説

(1) 研究の目的

児童・生徒に豊かな国際感覚を育み、コミュニケーションへの積極的な態度と確かな英語力を育成するため、教育課程やカリキュラム、指導及び評価方法等についてその在り方を探る。

(2) 研究仮説

9年間で育てる「生徒像」を明確にし、その目標達成に向けた小中一貫の外国語教育を行う。小学校第1学年から中学校第3学年までを4期に分け、学びの連続性を考慮した段階的な指導を行うことにより、「豊かな国際感覚とコミュニケーションへの積極的な態度、確かな英語力を身に付けた生徒」（目指す生徒像）が育成されるであろう。

3 教育課程と指導の概要

(1) 概要

小学校第1学年及び第2学年

「英語活動」（年間8時間）※余剰時間の活用

① 目標 <<導入期 ~出会う~>>

様々な人との関わりや体験的な活動を通して外国語の音声に慣れ親しませる。



② 内容・特徴

児童にとって身近な語彙や表現を扱い、歌や絵本、体を動かす活動を多く取り入れるなど、体験的な活動を通して音声に慣れ親しませる。また英語活動以外にも、他教科や他領域の学習にALTが参加するなど交流の場を設ける。

小学校第3学年及び第4学年

「外国語活動」※週1コマ 年間35時間

① 目標 <<体験期 ~親しむ~>>

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。



② 内容・特徴

3年生では、低学年同様、歌や絵本、体を動かす活動を多く取り入れ、楽しみながら英語の音やリズムに慣れ親しむようにし、4年生では、コミュニケーション活動において、3年生段階よりもさらに「相手意識」や「伝える中身」を重視する。また、5年生からの「外国語科」へのつながりを考慮して、段階的にアルファベット（文字）に慣れ親しむことができるよう、発達段階に応じてアルファベットに関する単元を組み込む。

